

Scrum —スクラム—

各課とスクラムを組む指導企画課

東京都教育庁指導部指導企画課長 出張 吉訓

平成24年も残り一月ほどになりました。各学校では、子供たちの学力や体力、心の成長などについて、先生方同士で話し合うなど、二学期や今年のまとめにお忙しいことと思います。

さて今月号は、義務教育特別支援教育指導課や高等学校教育指導課との協力の下、子供たちの学力向上のために、スクラムを組んで邁進している指導企画課の取組について御紹介いたします。

学力向上のためには、授業改善が重要であることは言うまでもなく、その推進には、先生方の指導力の向上、学校全体の取組の充実、教育環境の整備等、多方面からの努力と工夫が必要です。

指導企画課では先生方の指導力向上のため、教育研究員事業や研究開発委員会事業を行っています。教育研究員事業は、新たなスタートを切ってから今年で3年目です。今年度は約300名の先生方が研究に励んでいます。

また、言語能力向上推進校(130校)、人権尊重教育推進校(50校)、安全教育推進校(50校)、スポーツ教育推進校(300校)等、様々な推進校(指定校)事業を行い、学校全体の取組の充実の支援を行っています。

さらに、スクールカウンセラーの配置事業や学校非公式サイト等の監視、都立学校へのICT機器の配備など、教育環境の充実にも取り組んでいます。

今後、これらの取組について、発表会を開催し、報告書を作成しますので、是非、発表会に御参加いただき、また、報告書を御覧いただき、日々の授業改善に御活用いただければと思います。

《 目 次 》

- 平成24年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査
『報告書』が完成しました 2
 - 1 「問題の概要」・「結果分析」・「授業改善のポイント」
 - 2 「学習に関する意識調査」・「学校に関する質問紙調査」から
- 「理数教育の窓」 第3回
—理数好きの子供たちを育てるために— 4
- 「道徳教育の窓」 第4回
—東京の子供たちの豊かな心を育む— 5
- 「特別支援教育の窓」 第4回
—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して— 6

平成24年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 『報告書』が完成しました！

都教育委員会は、7月5日に実施しました「平成24年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の『報告書』を作成し、11月下旬に都内各小・中学校に配布します。

児童・生徒の課題や学習のつまずきを把握し、授業改善を図るための資料として、是非御活用ください。

平成24年度
児童・生徒の学力向上を図るための調査
報告書

平成24年11月
東京都教育委員会

実物の表紙は、水色です。

1 「問題の概要」・「結果分析」・「授業改善のポイント」

中学校外国語<英語>の例

8] (5) wh-+名詞で始まる疑問文の語順を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

(5) Lucy: What do you like? < sport >
 ^ ^ ^ ^
 ア イ ウ エ
John: I like baseball.

すべての設問について、**出題のねらいと問題の概要**を、紹介しています。

ここでは、疑問詞を用いた疑問文の語順を理解しているかをみています。

【結果分析】

ア(正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
48.4%	1.9%	3.1%	43.9%	0.2%	2.5%

8] (5) は、wh-+名詞で始まる疑問文の語順を理解しているかをみる問題である。正答は「ア」で、48.4%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「エ」で43.9%である。この誤答の要因としては、「wh-+名詞 ~?」の疑問文に慣れておらず、「Do you like **目的語** ?」の文で考えてしまったことによるものと考えられる。平成23年度調査においても同じ英文で出題したところ、48.0%の正答率であった。wh-+名詞で始まる疑問文の理解に課題がある。

正答率と誤答の反応率を示し、**誤答の要因**を分析しています。

ここでは、「Do you like 目的語?」の文型との混同が課題となっています。

【授業改善のポイント】 疑問詞+名詞の文に慣れさせる指導の充実を図る。

「what+名詞」、「which+名詞」などの疑問文は、疑問詞だけの疑問文に比べ使用頻度が低いため、定着が十分でない。そのため、「what color / what sport / what food / which season / which sweater」などの表現がよく使われる「買い物」や「インタビュー・ゲーム」のような言語活動を行うことが大切である。その際に、小学校外国語活動で、一度慣れ親しんだ表現を授業開始時のオーラルインタラクションで使用することも有効である。

課題を解決するための授業改善のポイントを紹介しています。

ここでは、「What+名詞」などの疑問文に習熟させるための言語活動を取り入れた指導事例を挙げています。

問題の概要

結果分析

授業改善のポイント

「Hi, friends! 2」(文部科学省発行)で使用されている表現
< 「What+名詞」の例 >

What time do you get up?	I get up at seven.
What time do you go to school?	I go to school at eight.
What color do you like?	I like red.
What food do you like?	I like milk and pizza.

「問題の概要」・「結果分析」・「授業改善のポイント」から

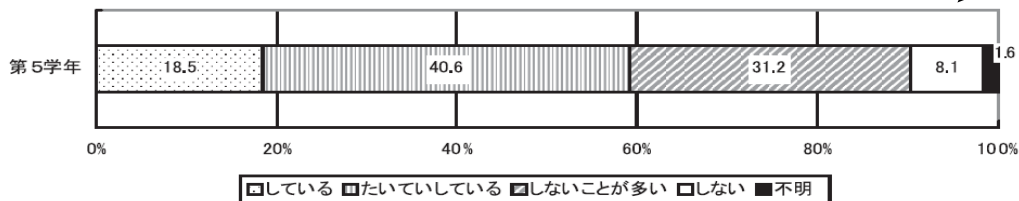
児童・生徒の課題や学習のつまずき、解決への手だてが見えてきます。



2 「学習に関する意識調査」・「学校に関する質問紙調査」から

「学習に関する意識調査」の回答と平均正答率との関係

④ 自分の考えを、整理して分かりやすく説明している。



自分の考えを、整理して 分かりやすく説明して いることと平均正答率との 関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
している	74.3	64.5	65.5	66.1	67.6
たいていしている	70.6	60.8	60.9	63.2	63.9
しないことが多い	65.4	53.8	54.4	58.8	58.1
しない	58.1	45.4	46.8	52.1	50.6

「自分の考えを、整理して分かりやすく説明している」ことについて「している」「たいていしている」と回答した児童の平均正答率は、「しないことが多い」「しない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっています。

この他にも、学習や生活に関する意識や生活状況についても掲載しています。

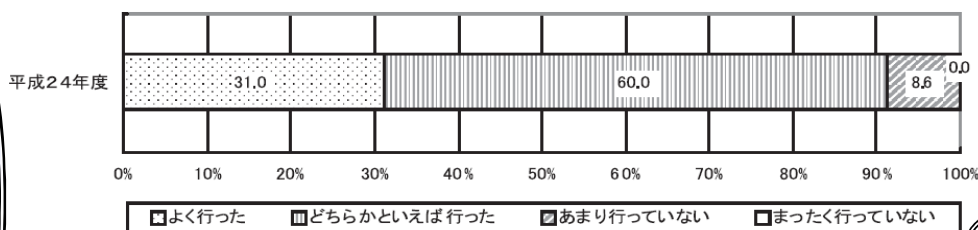
児童・生徒への「学習に関する意識調査」の集計結果を示しています。

例は、「自分の考えを、整理して分かりやすく説明している」という質問に対する、児童の回答ごとの割合です。

「学習に関する意識調査」の集計結果と「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の平均正答率との関係を示しています。

「学校に関する質問紙調査」の回答と平均正答率の関係

(4) 思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実を図った。(平成24年度新規質問)



言語活動の充実と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
よく行った	69.2	58.2	59.3	61.8	62.1
どちらかといえば行った	68.3	57.7	57.9	61.2	61.3
あまり行っていない	63.0	53.0	52.2	57.9	56.5

言語活動の充実を「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の平均正答率は、「あまり行っていない」と回答した学校の平均正答率よりも高くなっています。

この他にも、学校における指導方法に関する取組等についても掲載しています。

「学校に関する質問紙調査」の集計結果を示しています。

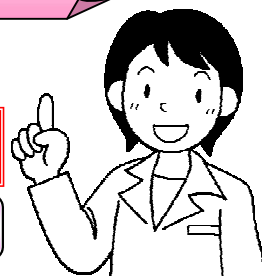
例は、「言語活動の充実を図った」という質問に対する、小学校の回答ごとの割合です。

「学校に関する質問紙調査」の集計結果と「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の平均正答率との関係を示しています。

この2つの調査結果から

思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実の大切さが見えてきます。

報告書は都教育委員会ホームページにも掲載しています。



「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために— 第3回

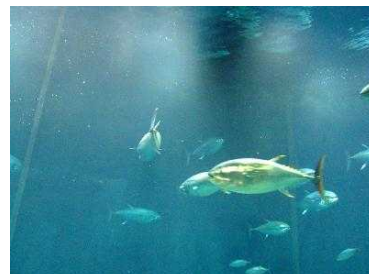
動物園・水族園を活用して、実感を伴った動物の学習を！

子供から大人まで、幅広い層に人気の動物園・水族園。休日に家族や友達と訪れる人も多いと思います。今回は、理数教育の充実につながる都立動物園・水族園の活用例を紹介します。

<展示の活用>

都立の動物園・水族園では、動物の生息環境を再現している「行動展示」を多く取り入れています。

「行動展示」では、動物が体を動かしているときの様子や動物が群れで生活している様子などについて、自然の状態に近い形で、観察することができます。



マグロの回遊が観察できる水槽
(葛西臨海水族園)

<イベントやプログラムの活用>

都立動物園・水族園では、毎月様々なイベントやプログラムが企画されています。

一部のイベントやプログラムは、事前申込みを行うことによって、校外学習等の際に活用することができます。

- 例 ・ 餌やりの体験…餌やりを通して、動物が物を食べる様子と歯のつくりの特徴を関連付けて考える。
- ・ 飼育員の講話…動物についての詳しい話を聞き、理解を深める。



オランウータンが渡るスカイウォーク
(多摩動物公園)

<学習資料の活用>

都立動物園・水族園では、学習資料となる写真パネルやDVDの貸出、ワークシートや解説資料の配布などを行っており、学校での授業で活用することができます。(一部のワークシートや資料は、ホームページからダウンロードすることもできます。)

- 例 ・ 小学校第4学年「人の体のつくりと運動」…人の体の骨や筋肉についての学習を行うとともに、ワークシートを用いて人や他の動物の体のつくりと運動とを関連付けて考える。その後、動物園に行き、実際に動物が運動している様子を観察する。
- ・ 中学校第2学年「生物の変遷と進化」…動物の足型を掲載した資料を用いて、いろいろな動物の足型の共通点や相違点を整理して分類させ、動物の進化について考える。
(「発展的な学習を推進するための指導資料 中学校編 理科」<東京都教育委員会平成24年3月>に、学習活動の展開例を掲載しています。)

東京都には、次の都立動物園・水族園があります。詳細は、各園にお問い合わせください。

〔都立動物園・水族園の所在地や問い合わせ先等〕

施設名	所在地	電話 ファクシミリ	ホームページ
恩賜上野動物園	東京都台東区上野公園 9-83	TEL 03-3828-5171 FAX 03-3828-6475	http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/
多摩動物公園	東京都日野市程久保 7-1-1	TEL 042-591-1611 FAX 042-594-4459	http://www.tokyo-zoo.net/zoo/tama/
葛西臨海水族園	東京都江戸川区臨海町 6-2-3	TEL 03-3869-5152 FAX 03-3804-3154	http://www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/
井の頭自然文化園	東京都武蔵野市御殿山 1-17-6	TEL 0422-46-1100 FAX 0422-46-1906	http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/

「道徳教育の窓」第4回

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

第1章「先人のことばに学ぶ」の活用について

東京都道徳教育教材集中学校版「心みつめて」の第1章「先人のことばに学ぶ」には、巻頭の言葉も含め 33 編の「ことば」を掲載しています。この「ことば」の選定・編集に当たっては、人生の指針となる道徳的価値を内在した数多くの名言・名句、漢詩、短歌・俳句などの中から、道徳教育の指導で活用できるよう、特に以下の2点に留意し熟考を重ねました。

- ① 生徒が自分の生き方を考える糧として、生徒の心を揺さぶり、心に深く残るようなメッセージ性のあるもの。
- ② 繰り返し読んで暗誦し、自分のものにしていくために、リズム感があるもの。

教育活動の多様な場面での活用について

第1章に掲載された「先人のことば」を、道徳の時間の説話で取り上げたり、学校便りに掲載したりするなど様々な取組の様子についての声が、当課に届けられています。

このように多くの中学校では、授業中や休み時間、学校行事へ向けた取組、部活動等、教育活動のあらゆる場面で、生徒の実態等を踏まえ、生徒の状況等を的確に把握しながら、生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を高めるための指導が展開されています。

東京都道徳教育教材集は、中学校版（24年7月発行）、小学校版（3分冊、25年3月発行）共に、道徳の時間の副読本・補助教材としてだけでなく、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の指導で活用できるよう、作成しました。

ぜひ、教育活動の様々な場面で、「先人のことば」を引用して指導するとともに、生徒が暗誦したり、「先人のことば」について考えて発表したりする取組を行うなどして、活用してください。

中学生にとっては意味がよく理解できない「先人のことば」もあるかもしれません。また、中には、言い回しや使われている語句に難しいものもあり、状況によっては、それらについての解説が必要となるでしょう。しかし、個々の言葉の意味を厳格に、詳細に教え込むことが、この章の目的ではありません。たとえ今は意味が分からなくても、いつかふっとその言葉と自分の人生が結びつく。そういうものであってほしいと思います。

また、そのようにたくさんの言葉と向き合っていくことができる心をもってほしい。そんな思いを込めています。

この章には、古いもので 2500 年ほど前に発せられた言葉もあります。その言葉が文字として残り、あるいは口伝えに 21 世紀の現在も生き続けているのはなぜでしょうか。

それは、そこに人が生きていく上で大切な「真実」があるからだと思います。生徒たちが、様々な言葉を通してその「真実」に触れ、今は届かなくても、そこに向かって手を伸ばしてみる。・・・そのような、第1章「先人のことばに学ぶ」の活用を期待しています。

「先人のことば」の活用

- * 道徳の時間の教師の説話で
 - * 学級指導で
 - ・「今月のことば」
 - ・学級通信
 - * 学校行事に向けての指導で
 - 合唱コンクールや体育大会
 - * 部活動の指導で
 - ・日常的な練習や大会等へ向けての取組 ……
- 「活用のための指導資料」の p.6-7 を参照してください。

「特別支援教育の窓」 第4回

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—

相手の気持ちを考えた言葉かけ、話し合いのルール

発達障害のある児童・生徒には、集団で生活するためのマナーやルールを理解しにくいという一面があります。

特に、自分の気持ちを相手にうまく伝えることや人の話を聞くこと、周りの友達と協調しながら話し合ったり相談したりすることが苦手であるという特性があります。

このような特性を理解した上で、発達障害のある児童・生徒が人と円滑にかかわるためのスキルを身に付けられるよう支援していくことが大切です。

そのためには、発達障害のある児童・生徒のための指導というよりも、学級全体の児童・生徒を対象として、日常生活の中で、自然に、みんなで学び合えるような指導を計画的に実施することが重要です。集団で生活するためのマナーやルールを学び、学級全体でマナーやルールを守り、和やかな雰囲気の中で学習することは、発達障害のある児童・生徒のためだけでなく、学級の全ての児童・生徒のためにも有意義であるといえます。

相手の気持ちを考えて言葉かけをしよう。

相手の気持ちを察することができず、相手の嫌がる言葉かけをしてしまい、友達とトラブルになることがあります。「相手の嫌がる言葉かけを止めよう」といった抽象的な指導ではなく、どのような言葉かけをするとよいのか、具体的に指導しましょう。

学級活動で

言われてうれしかった言葉、ほっとした言葉について、学級全体で話し合わせ、表にしましょう。

(例)

言われてうれしかった言葉ランキング
1位 ドンマイ！
2位 がんばれ
3位 だいじょうぶ

話し合いのルールを決めよう。

話し合いや相談で、周りに合わせて意見が言えなかったり、自分の気持ちをうまく表現できなかったりすることがあります。話し合いがうまく進まないとお互いに気持ちがぎくしゃくして、トラブルになってしまうこともあります。話し合いや相談の仕方についてルールを決め、ルールに従って話し合う練習をさせましょう。

各教科の授業で

話の聞き方や発表の仕方、話し合い方等のルールを決めさせて、習慣化できるように教室に掲示しましょう。

(例)

話し合いのルール
1 自分ばかり話さない。
2 他の人が話しているときは、しゃべらない。
3 相手に聞こえる声で話す。

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを送信してください。

なお、本メール・マガジンは、pdf ファイルにて提供いたしますので、携帯電話では読むことができない場合があります。